

スーパーひいばあちゃん 九十八歳
最終章 旅立ち

長尾 いずみ

「こちらこそ、こちらこそ」

と、目を閉じたまま、手を合わせるひいばあちゃん。子ども、孫、ひ孫、沢山の家族に見守られ、皆の「ありがとう」の言葉に答えながら、自宅で、静かに穏やかに旅立ちました。最期の最期まで、ひいばあちゃんの心の中には、感謝の気持ちであふれていました。

二年連続、ありがとう作文コンクールで入選したひいばあちゃん。昨年、熱中症になり、回復したものの、徐々に食欲が減少、お散歩もできなくなり、毎日の洗顔も入浴も難しくなっていて、ねている時間が増えていきました。そのような状況でも、毎晩、お仏壇の前に座り、短縮版の般若心経を唱える事は、続けていました。そして、私達が遊びに行くと、ベッドから体を必死に起こして、手を握りながら、

「よく来てくれたね。ありがとう。」

と、目に涙をためて微笑み迎えてくれました。

戦時中に生まれ育ち、結婚後は、毎日生きるために必死で生活をし、何度も商売に挑戦をしてやっと成功をしたひいばあちゃん。沢山の困難をのりこえられたのは、ひいおじいちゃん「自分達の大きな家を持つ」という夢を持ち続けていたからとの事。「なぜば成る為さねば成らぬ何事も」ひいばあちゃんがよく言っていた言葉の一つです。この思いで夢を実現させたひいばあちゃんの生き方は、とても素晴らしいと思います。私の誇りです。

お葬式の日。お棺の中には、入選したスーパーひいばあちゃんの作文と、皆で心を込めて写経した般若心経、手紙、お花等を入れました。家族の思いがいっぱい詰まった宝物に囲まれたひいばあちゃんは、まるで仏様のようにでした。

ひいばあちゃんが亡くなり、大きく変わった事があります。それは、祖母が、毎日、お仏壇の前で般若心経を唱えるようになった事です。その姿を見ながら、私は、

「祖母の次は、お母さん。そして、その次は私へと、受け継がれていくんだ」

と、しみじみ思います。ひいばあちゃんが毎日欠かさずに続けていた事、その思いが、こうしでずっと生き続けていくのです。

三月十八日、私の誕生日。思いがけないプレゼントが届きました。ひいばあちゃんからです。それは、亡くなる少し前に、ひいばあちゃんが、祖母に「渡してほしい」と託していたそうです。本当に最期まで、私達の事を思ってくれていたのだと思うと、胸がじーンと熱くなります。会いたくなります。

ひいばあちゃん。ひいばあちゃんは、私達に色々な事を教えてくれたよ。大切な物を与えてくれたよ。これから、どんなに辛い事があっても、夢を持って、何度も挑戦をして、進んでいくよ。だから、これからもずっと見守っていてね。心の中でお話をしようね。

「いっぱい、いっぱいの「ありがとう。」」

評価のポイント

「スーパーひいばあちゃん」のお葬式の思い出を「ありがとう」の気持ちで優しく表現しています。情景の描写が上手く、まるで1本のドラマを観ているようでした。